



第14回学術大会開催報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第14回学術大会
大会長 元木 雄一郎

令和4年12月11日（日）に一般社団法人山梨県言語聴覚士会第14回学術大会を開催致しました。当士会単独としては3年ぶり、また初のオンライン開催となりました。参加者78名（県士会員76名）にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加・ご支援をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。

今大会は「Restart～今求められる新たなSTとは～」をテーマとして、コロナ禍で止まっていた学術大会の再スタート、言語聴覚士として今まで積み重ねてきたことを大切にして次のステージへ挑戦していくなどの意味を込めました。

そのような思いから、2つの特別講演を企画しました。特別講演1では後藤伸介先生（やわたメディカルセンター）をお招きし、「多職種チームで活かす、STの強み」と題してお話いただきました。活動・参加の考え方やアプローチの重要性、また多職種からみたSTの強みや期待することなどをお話いただきました。特別講演2では佐藤睦子先生（総合南東北病院）をお招きし、「ひとつ、ひとつ、実現する言語聴覚療法：謎解き好きな言語聴覚士になる」と題してご講演いただきました。目の前の患者さんを大切に、日々の臨床の中での疑問を持ち、探求することの大切さ、症例検討や研究の重要性についてお話いただきました。いずれのご講演も大会テーマの「今求められるST」ということを改めて考える機会となり、充実した内容でした。また一般口演では、8名の先生方にご発表いただき、全ての口演ともに会員の皆様から活発なご討議をいただきました。多くの会員が参加し活発な意見交換がされる光景は対面の時と変わらず大変充実した大会となりました。会期中はご不便をおかけした点多々あったかと存じますが、参加された皆様のおかげで大変充実した学術大会にすることができたと思います。改めて感謝申し上げます。

末筆ながら、特別講演をお引き受けいただきました先生方、ご後援いただいた諸団体、発表者の方々、快くお引き受けいただいた査読委員・座長の先生方、そして日々の忙しい業務の中、学術大会の企画・運営にご協力いただきました実行委員長をはじめ、実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。



一般社団法人山梨県言語聴覚士会
第14回学術大会発表記



甲州リハビリテーション病院 柴田 美貴子

今回、山梨県の学術大会で初めて発表させていただきました。研究発表、症状を分析する事で発見や学びが沢山ありました。努力し学んだ事は、STとして患者様の症状を理解してあげられること、そしてSTも患者もお互いに良くしたいという気持ちに少しでもこたえられることに通じると感じています。今回学んだ事を次の患者様に活かせるよう、そして目の前の患者様を大切に学んでいきたいと思っています。大変貴重な機会でした。ありがとうございました。



甲府城南病院 佐藤 淳貴

今回の学術大会は、演者と実行委員の立場で参加させていただきました。至らぬ点も多くありましたが、多くの方の支えにより無事に終えることが出来ました。支えてくださった職場の先輩や同僚、査読委員や実行委員、参加者の皆様に大変感謝しています。また、後藤伸介先生、佐藤睦子先生の特別講演を拝聴し、チームの中でSTが担える役割と更なる可能性を追求し、日々の臨床に疑問を持ち続ける事の大切さを改めて感じ、今後も探究する姿勢を忘れず臨床に励みたいと感じました。



甲州リハビリテーション病院 佐藤 綾美

今回の発表を通して、患者さんについてより深く知り考え、臨床で感じた疑問や症状の整理ができました。また、調べる過程で新たな知見を得ることができ大変勉強になりました。普段の臨床でも症状を丁寧に整理・分析し、障害像をとらえて治療に反映させることが大事だと感じました。また、症例発表による情報交換が言語領域の発展につながり、患者さんのためになるということを実感しました。この学びを今後も活かしていきたいです。



デイサービスいろは 舟越 あゆみ

この度、「地域支援事業における言語聴覚士の活動と展望」と題して発表を致しました。積極的に地域の事業に参画するようになって6年程経過しましたが、自身の活動を言語化し、皆様に報告する経験を通して、今までの活動を振り返ることができました。今後の地域活動においては、客観的な評価も実施していきたいと感じています。今回、演題発表の機会をいただき、当日は多くの質問も寄せていただきまして、皆様に感謝申し上げます。



石和温泉病院 飯塚 真

第14回学術大会にて、発表させていただきました。Zoomでの発表では、参加者の表情や反応が掴みにくいため、発表資料は視認性良く、伝わりやすくなるように心掛けました。発表に向けて上司や先輩方に協力をさせていただきましたが、質疑応答の際には、緊張して十分な返答が出来ずに反省点となり、伝えることの難しさや勉強不足を痛切に感じました。今回の経験を活かし、研鑽を積み日々の臨床で実践し、またチャレンジしたいと思います。



甲府城南病院 小池 七海

今回、高度難聴の患者に対し、早期に筆談を導入し、コミュニケーション方法を確立したことで、全般的な機能改善や意欲向上へと繋がった症例について発表しました。症例を通して、多職種との情報共有や情報収集の重要性、急性期STの役割について改めて考える機会を得たとともに、質疑応答を通して、新たな課題も見つける事が出来ました。今後も、知識の幅を広げられるように様々な研修会に積極的に参加していきたいと考えています。



巨摩共立病院 山川 大樹

山梨県言語聴覚士会第14回学術大会にて『当院における多職種連携の取り組み「摂食嚥下サポートチーム」』という内容で発表をさせていただきました。発表にあたり、数年間に渡り多職種協働のもとで続けてきた取り組みを振り返ることができ、現状の課題や今後の展望について改めて考えることができました。また多くの先生方から貴重なご意見・アドバイスを多く頂き充実した時間を過ごすことができました。今回このような機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。



山梨県立中央病院 中嶋 崇博

今回「食道がん患者に対する早期リハビリテーション介入による効果の検討」という内容で発表をさせていただきました。本学術大会においては、オンラインでの開催でしたが、多くの意見交換ができ、今後の臨床・研究に向けた新たな視点を獲得する場となりました。今後も日々の臨床だけでなく、臨床で得られた成果をアウトプットしていき、自身のスキルアップにも繋げていきたいと思えます。今回は、このような機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。



特別講演の司会 内山量史会長

特別講演 1 後藤 伸介先生



座長
上：桂川謙祐先生
下：山田徹先生



特別講演 2 佐藤 睦子先生

一般社団法人山梨県言語聴覚士会
第14回学術大会運営委員参加記



実行委員長 吉澤 由香（甲府城南病院）

県士会初のオンライン開催で行う学術大会のプレッシャーにも負けず、連日、コロナ渦の業務と併行して、密に連絡を取り合い、作り上げて下さった実行委員の皆様、慣れないオンライン環境下でも熱い想いを伝えて下さった発表者の先生方、会場に集合して開催するのと同様の熱意を持って意見交換を繰り広げて下さった参加者の皆様、ここには全て挙げきれませんが、本大会に関わって下さった全ての皆様のおかげで第14回学術大会が無事に終わることができましたことを深く感謝申し上げます。



事務部 河村 有美（甲府城南病院）

今回、事務部を担当させて頂きました。事務部では実行委員会会議の準備や書類等の作成・送付が主な業務でしたが、様々な作業を通して、公的な書類の書き方等も学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。また、今回は初のオンライン開催で、Google フォームでアンケートを作成するなど、事務部としても初めての試みもありましたが、県外の先生方にもご参加いただくことができ、大変有意義な大会だったと思います。本当にありがとうございました。



企画部 赤池 絢（甲州リハビリテーション病院）

企画部を担当致しました。初めてのオンライン開催でわからないことも多く手探りでしたが、実行委員の先生方と協力し大会を作り上げることができ、忙しくも充実した半年間でした。オンラインやメールでの講師の先生とのやりとりは大変緊張しましたが、学ぶことも多く貴重な経験となりました。オンラインであっても山梨県らしい充実した学術大会となり、実行委員として携われたことをとても嬉しく思っています。ありがとうございました。



編集部 原田 史佳（石和共立病院）

編集部は4名で今回私は部長を務めさせて頂きました。部長とは名ばかりで、大会長、実行委員長、各部署長の先生方、そして部員の先生方にはおんぶに抱っこに肩車な半年間でした。編集部では抄録集や記録集を作成しました。皆様の手元に抄録集が届くまで緊張した日々を過ごしておりました。抄録集が出来上がるまでの過程には多くの人や作業が関わっておりました。そして今まで積み重ねてきた抄録集の思いや重みを改めて知ることが出来ました。



運営部 五十嵐 真之（石和温泉病院）

多忙を極めるなかで、一つ一つの相談に丁寧に応えてくださった大会長や実行委員長、オプザーバー。必要な情報を適宜共有して下さった各部長。そして、とても寛容で優秀な部員たち。たくさんの先生方に支えていただき、改めて御礼申し上げます。Zoom 会議では気配を消したつもりがマイク ON で怒られていた、ネットリテラシーの低い私が、初のオンライン開催で運営部部長を務めることができたのは、ひとえに皆さまのおかげです。

令和4年度秋期都道府県士会会長会議報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 副会長 中村 晴江

令和4年11月12日(土)、秋期都道府県士会会長会議が会場とオンライン(Zoom)のハイブリッド形式で開催されました。私は残念ながらオンラインでの参加となりましたが、会議では現地・オンライン参加に関わらず、指定規則、臨床実習指導者講習会や士会員と協会の一致化などについて活発な質疑や討議が行われました。報告内容・ディスカッション内容は以下の通りとなります。

1. 2022年度全国研修会(計6回)の報告及び2023年度全国研修会の予定について報告があった。また2023年度認定言語聴覚士講習会については言語発達障害領域・摂食嚥下機能障害領域の開催を予定している(生涯学習部)。
2. 「乳幼児健診事業にかかわる言語聴覚士のためのハンドブック」および「障害福祉サービスリーフレット作成～関連従事者向け～」の配布を2023年春までに予定している。各士会事務局に配布するが、日本言語聴覚士協会ホームページからダウンロードも可能である(障害福祉部)。
3. 介護予防リーフレット・地域リハビリテーション活動支援に資する人材育成事業導入研修資料を改訂し、来年度配布予定している(介護保険部)。
4. 令和6年度診療報酬改定の要望事項を検討しており、今後、調査を依頼する予定である(医療保険部)。
5. コロナ禍における言語聴覚士の支援事例を募集し、協会ホームページで公開する予定である(安全対策部)。
6. 2023年度「言語聴覚の日」イベント共催のお願い、2022年度開催報告、動画サイト投稿の依頼があった(広報部)。
7. 都道府県士会災害担当者向け災害基礎研修の開催について報告があった(災害対策部)。
8. 非日本語話者・多言語に対応するための評価道具と状態・指導内容の説明などを集約し会員に提供する準備を進めているとの報告があった(国際部)。
9. 活動支援補助金の申請および施設詳細情報登録依頼について報告があった(障害福祉部)。

全体のディスカッションでは、①指定規則、臨床実習指導者講習会について②都道府県士会会員と協会会員の一致化に向けて活発な意見交換がされた。

終わりに、第23回日本言語聴覚学会(新潟県)の開催報告及び第24回日本言語聴覚学会が愛媛県にて開催されるとの報告があった。

都道府県士会会長会議の詳細な内容につきましては協会ホームページや情報誌 STANDUP をご覧下さい。

今後も会員の皆様とともにさらに活動を発展させ、言語聴覚障害者を含め地域のすべての住民がより豊かに自分らしく生活できるよう、協会と結束しながら事業展開をしてまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和4年度第3回山梨県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会

外出同行支援実習②

「岡島デパートでのショッピングとバス利用練習」12月10日（土）12:30～15:00



修了式の前は講習会最後の外出同行支援を実施しました。支援者8名と当事者8名はSTとともに甲府駅から岡島までのバス乗車を往復利用しました。短い時間でしたが、当事者が写真のように生き生きと活動できたことはそれぞれの意思を支援者が丁寧に汲み取りながら支援した成果の賜でしょう。

支援者のコミュニケーション支援技術評価における初回時と6回目の比較では、個人内点数が倍以上に上がった3名の支援者を含め、全員の失語症に対する理解と支援技術の成長を心強く感じました。私たち委員も3年間で34名の受講者を養成した経験により、失語症者向け意思疎通支援事業が担う社会での役割について実感できました。来年度からは派遣事業を拡大できるような仕組みやスキルアップ研修など新しいメニューが予定されていますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和4年度山梨県失語症者向け意思疎通支援者 7名が修了



同日談露館にて行われた修了式では今年度7名が県に登録されました。

3年間で山梨県の目標である30名の支援者が登録できたことは、県土会運営委員8名と指導者養成研修受講の20名の言語聴覚士のご協力がなければ不可能な事業でした。心より御礼申し上げます。

山梨県失語症者向け意思疎通支援事業
運営委員会 委員長 赤池三紀子

施設紹介



山梨県立ろう学校 藤田 芝圭美

山梨県立ろう学校は、県内で唯一の聴覚障害特別支援学校です。大正11年に私立山梨盲啞学校として開校し、昭和24年に現在の山梨県立ろう学校になりました。今年で創立100年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

幼稚部から高等部までの難聴の幼児・児童・生徒が山梨県内各地から通学しており、遠方の児生のために寄宿舎も敷地内にあります。また、聴覚障害教育のセンター校として、県内の聴覚に障害のある乳幼児から、小・中・高生及び20歳までの学生を対象として、きこえとことばに関する相談と支援を行っています。

校内には、聴力測定室があります。定期的に聴力を測定し、児童・生徒のきこえの状況を把握しています。言語聴覚士は、外部専門家活用の一環で、週に1日から2日程度来校し、本校職員の助言、指導にあたっています。また教員は、自立活動の授業を中心に言語聴覚の知識や技能を用いた指導を行う必要があります。聴能研修が定期的に行われています。環境整備として教室には磁気ループがひかれています。最近では聴能補助援助システム（ロジャー）を活用したり、電光掲示板が使用されたりしています。



TSUYUKI Group

株式会社 洗心 訪問看護ステーションつゆき
露木耳鼻咽喉科医院 訪問リハビリテーションつゆき
岡 大樹

つゆきグループの中に訪問看護ステーションと訪問リハビリテーションがあり、リハビリスタッフはPT4名・OT2名・ST1名が在籍しています。

☆訪問看護ステーションつゆき

重症度が高く医療的ケアが必要な方や小児・重症児等あらゆる方々に対応し受け入れをしています。そのため、当ステーションのリハビリは小児リハビリから終末期リハビリまで対象が幅広いことが特徴です。看護はストーマケアや褥瘡に対するケアやがんなどによる身体的・精神的な苦痛を和らげるためのケアに対し、認定看護師も在籍しています。さらに、24時間対応を含むオンコール業務や休日・祭日の対応も行っています。

☆訪問リハビリテーションつゆき

令和3年9月に露木耳鼻咽喉科医院で開所いたしました。

当グループは利用者様・ご家族が選んだ生き方、逝き方を大切にしながら、支援に携わるチームメンバーと連携・協働し住み慣れたご自宅や地域で安心して自分らしく生きることを支えられるよう努めています。



三二講座

飲みたいを叶える！炭酸飲料に特化したとろみ調整食品 「つるりんこシュワシュワ」のご紹介

株式会社クリニコ クリニカルマーケティング部 渡辺 達也

平素より大変お世話になっております。

株式会社クリニコ クリニカルマーケティング部の渡辺と申します。

弊社からは、「いくつになっても、飲みたいものを、飲みたいときに」そんな願いのもと2022年9月に発売いたしましたとろみ調整食品「つるりんこシュワシュワ」をご紹介させていただきます。

国立長寿医療研究センター老年内科の前田圭介氏（医師）が実施した、高齢者の嗜好調査アンケート※1によると、若者に好まれる印象が強い炭酸飲料は、高齢者の嗜好にもマッチし、一部の方々にとっては欠かすことのできない飲み物であるという結果がでています。ただし、嚥下機能の低下により飲み込みにくくなると、好きな炭酸飲料を諦めるしかなかったという声も弊社に寄せられていました。多くの方の飲みたいという想いに応えるため、今回の製品発売に至りました。

※1：前田圭介. 老年症候群と食および排泄の問題に関する研究（長寿医療研究開発費 20-57）2021年
対象：全国 1,100名（男女比1：1）、インターネット調査、平均年齢 74.3±5.4歳

弊社では、嚥下機能の低下により、飲み込みにくいと感じる方が安心して水分や栄養を摂取できるように、2003年よりとろみ調整食品「つるりんこ」シリーズを販売しております。従来のとろみ調整食品を使い炭酸飲料にとろみをつけようとすると、スプーン等でかき混ぜる過程で炭酸が抜けるといった課題がありました。

今回ご紹介する「つるりんこシュワシュワ」は、コーラ等の炭酸飲料のとろみ付けに特化して開発しており、従来品では難しかった炭酸飲料本来の風味やシュワシュワ感を残すことにこだわった商品です。

サンプルのご依頼や製品説明も承っております。

お気軽に弊社営業担当者までお問い合わせください。

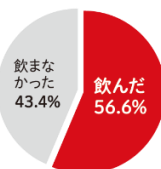
商品の詳細は
こちらからご覧ください。



高齢者の嗜好調査アンケート

対象：全国1,100名
(平均年齢74.3±5.4歳、男女比1：1)

●過去1か月の間に、
炭酸飲料を
飲みましたか



●炭酸飲料を
「飲む」ことを
禁じられた場合
受け入れられ
ないかも



●好きな炭酸飲料の味は？



前田圭介. 老年症候群と食および排泄の問題に関する研究
(長寿医療研究開発費20-57) 2021年



県士会 お仕事紹介

News54 号発刊まで

手で原稿を切り貼りしていた 1 号発刊から 20 年以上が経過しました。現代は、ひとり一台パソコンやスマホを所有する時代になり、県士会ニュースの発刊までの工程も変化しています。

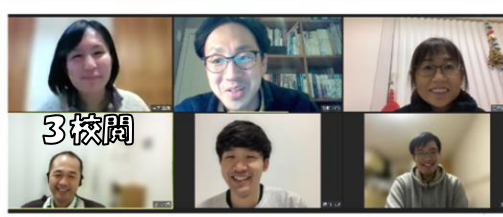
今回は、県士会ニュース発刊までの部員さんの道のりを紹介します。



1 アポ取り



2 校正



3 校閲



4 校了・発刊

上段左：県士会ニュースはじめの仕事は電話でアポ取り 上段中：校正・校閲は、現在は PC で行っています
上段右：印刷は、県士会ニュースが刊行以来、甲府市にある協和印刷社様にお願いしています



5 発送作業



中段写真：発送作業。糊付けをしている顔も真剣そのもの



6 事務局から会員・全国の ST へ発送

県士会ニュースを是非ご一読ください！



第5回 理事会議事録

日 時：令和4年8月26日(金) 19時00分～20時35分
出席理事：内山、赤池(洋)、中村、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、舟越、元木、山田、吉澤、河西
欠席理事：赤池(三)

<協議事項>

1. 症例検討会のバイザー制度は今後も継続していくことが承認された。バイザーの人選方法については継続審議となった。
2. 今年度の新卒者研修の講師と内容が以下の通り決定した。
9月：言語聴覚士の職務と役割(内山会長)
10月：対人コミュニケーション(中村副会長)
11月：認知症サポーター養成講座(山田理事)
12月：高次脳機能障害+失語症(桂川理事、元木理事)
1月：SLTA(元木理事、松本ST)
2月：摂食嚥下障害(佐々木理事)
3月：構音障害(石垣理事、萩原ST)
STのコミュニケーションに欠かせないもの(赤池三紀子副会長)については、コロナの感染状況をみて実施することとなった。
3. 第14回学術大会の申込開始日を県士会員と非士会員とで分け、非士会員は先着順とすることが承認された。

<報告事項>

1. 第1回山梨県リハビリテーション専門職団体協議会理事会、失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修修了者の集いの開催が報告された。
2. 県内高校へのリーフレットの送付、県立図書館への書籍の寄贈について報告された。
3. ニュースレター53号の原稿依頼作業の実施、HP更新状況について報告された。
4. 「地域リハ活動支援推進のための人材育成事業導入研修」について、地域包括ケア推進コースを令和4年10月19日、11月4日、介護予防推進コースを11月15日、24日に開催することが報告された。

第6回 理事会議事録

日 時：令和4年9月29日(金) 19時00分～20時53分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、中村、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、舟越、元木、山田、吉澤、河西
欠席理事：なし

<協議事項>

1. 高次脳機能についての学術講演会を橋本圭司先生に依頼することが決定した。
2. 第2回生涯学習プログラム基礎講座を令和5年1月24日に開催することが承認された。また、症例検討会は、今年度5回開催することとなった(令和5年2月16日を追加)。
3. 県士会ホームページトップページ写真を会員から募集することが決定した。
4. 災害対策安否確認システム第2回予行演習を10月10日～17日に行うことが承認された。

<報告事項>

1. 第1回症例検討会の開催が報告された。
2. 自由民主党山梨県連支部連合会令和5年県施策及び予算編成に対する要望事項のヒアリング、第1回山梨県在宅医療連携推進会議、第2回山梨県リハビリテーション専門職団体協議会理事会、山梨リハケアの推進を考える会、令和4年度外来リハ・訪問リハ・訪問介護・通所リハ・通所介護に関するアンケート調査結果について報告された。
3. 甲府市での意志疎通支援者派遣4回目・5回目の実施が報告された。
4. 「失語症全国大会 in やまなし」を令和5年9月30日に県立図書館にて開催予定であることが報告された。

第7回 理事会議事録

日 時：令和4年10月21日(金) 19時00分～20時21分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、中村、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、舟越、元木、吉澤、河西
欠席理事：山田

<協議事項>

1. 失語症者への拡大代替コミュニケーションについての講演会を坊岡峰子先生に依頼することが決定した。
2. 広報活動品として新たにボールペンを500本作製することが承認された。
3. 県士会ニュース54号の企画について承認された。
4. 第14回学術大会のHPへの資料掲載期間、内容が承認された。情報を保護するためにPDFファイルをパスワード化することとなった。

<報告事項>

1. リハ専門職団体協議会ST士会拠出金を納付したことが報告された。
2. 令和4年度介護現場人材育成研修、山梨県介護支援専門員協会甲府支部スキルアップ研修について報告された。

第8回 理事会議事録

日 時：令和4年11月25日(金) 19時00分～20時53分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、中村、石垣、市川、桂川、佐々木、高橋、舟越、元木、吉澤、河西
欠席理事：山田

<協議事項>

1. 症例検討会について日本言語聴覚士協会への生涯学習プログラムポイント取得対象研修会としての申請を継続することが決定した。オンライン開催において参加証明書を発行する条件については継続審議となった。

<報告事項>

1. 第1回生涯学習プログラム基礎講座、第2回症例検討会、第1回学術講演会の開催が報告された。
2. 「地域リハ活動支援推進のための人材育成事業導入研修」、地域ケア会議推進メンバー育成研修会について報告された。
2. 令和4年度「失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修」、第6回・第7回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会、甲府市派遣支援8回目・9回目の実施が報告された。
3. 第14回学術大会抄録集の県士会ホームページへの掲載期間が令和4年12月14日～令和5年1月13日に決定した。

開催方法：Zoomシステムによるオンライン会議

議 長：内山量史

書 記：廣瀬李菜、高橋里実、佐藤淳貴、望月智佳

議事録作成：河西祐子

<各局・委員会からのお知らせ>

事務局

<総務部>

- 令和4年12月末現在の会員動向についてお知らせします。
正会員数140名 賛助会員7団体
新入会
園分志保先生(甲府城南病院) 中込夏菜美先生(城東病院)
 - 退会
武藤安耶先生(湯村温泉病院)
- 年度末に向けて異動の多い時期かと思えます。会員名簿記載事項に変更のある方は速やかに「会員異動届」の提出をお願い致します。届出用紙は県士会HPからダウンロードできます。

<財務部>

- ほぼ全会員に会費を納入していただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

学術局

昨年は学術局主催の講演会や研修会にご協力いただきありがとうございました。本年もより充実した内容の講演会や研修会を企画できるように努めてまいりますので、ご参加の程よろしくお願い致します。

<教育部>

- 第5回 新卒者研修会
日時:令和5年1月26日(木) 18:45~20:30
会場:Zoomで開催
内容:SLTA
講師:元木雄一朗先生(甲州リハビリテーション病院)
松本陽佳先生(甲州リハビリテーション病院)
- 第6回 新卒者研修会
日時:令和5年2月予定 18:45~20:00
会場:Zoomで開催
内容:摂食嚥下障害について
講師:佐々木蘭子先生(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)
- 第7回 新卒者研修会
日時:令和5年3月予定 18:45~20:00
会場:Zoomで開催
内容:構音障害について
講師:石垣亮太先生(甲斐リハビリテーションクリニック)
萩原由香先生(山梨リハビリテーション病院)

<生涯研修部>

○学術講演会

- 第2回 学術講演会
日時:令和5年2月10日(金) 18:30~20:30
会場:Zoomで開催
内容:「失語症者のAACを用いたコミュニケーション」
講師:坊岡峰子先生(県立広島大学)
- 第3回 学術講演会
日時:令和5年2月28日(火) 18:30~20:30
会場:Zoomで開催
内容:「高次脳機能障害者への支援」
講師:橋本圭司先生(はしもとクリニック経堂)

○基礎講座

- 第2回基礎講座
日時:令和5年1月24日(火) 18:30~19:45
会場:Zoomで開催
内容:①臨床業務のあり方・進め方 ②職種間連携
講師:佐々木蘭子先生(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)
桂川謙祐先生(甲府城南病院)

○症例検討会

- 第4回 症例検討会
日時:令和5年2月16日(木) 18:30~20:30
会場:Zoomで開催
- 第5回 症例検討会
日時:令和5年3月16日(木) 18:30~20:30
会場:Zoomで開催

社会局

<渉外部>

- 日本語聴覚士協会や山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県介護支援専門員協会などの他団体との連携や行政との連携・協力を行っています。
- 秋期都道府県士会会長会議がオンラインで開催され、当士会代表として中村副会長、協会代表として内山会長が参加されました。
- 山梨県介護支援専門員協会甲府支部スキルアップ研修がオンラインで開催され、講師として中村副会長が参加されました。
- 山梨県介護支援専門員協会在宅医療介護支援体制強化事業研修会が山梨県医師会館で開催され、講師として高橋理事が参加されました。
- 介護職場人材育成研修が山梨県福祉プラザで開催され、講師として赤池洋副会長、桂川理事が参加されました。
- 甲府市在宅医療・介護連携推進会議・顔の見える関係づくり交流会がオンラインで開催され、吉澤理事、岡STが参加されました。

<広報部>

- 令和4年10月22日(土)、高橋理事がRUN 伴やまなし2022に認知症対策委員会と共同で参加し、認知症に関する啓発活動を行いました。
- 今後も感染対策に努めたくて一般の方々に向けた言語聴覚療法の広報及び啓発活動を行ってまいります。

<会報編集部・ホームページ管理部>

- 会報誌「県士会NEWS54号」の発行を行いました。会報誌を通じて県士会活動の周知だけでなく会員間のコミュニケーションツールとして情報を発信していきたいと思えます。
- 当会ホームページではトップページ上段に掲載する写真を会員の皆様から公募いたします。写真は県士会活動の様子や会員の集合写真、また会員から募集した山梨県の季節、名所の写真などをホームページへ掲載していきたいと思えます。ご協力をお願い致します。

災害対策支援委員会

- 令和4年度山梨県地震防災訓練が令和4年11月6日に西桂町で開催され、山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会(山梨 JRAT)より4名(PT2名、OT1名、ST1名)が参加しました。今年度は中学生を対象に車椅子の取扱いや実技練習、JRATについて説明を行いました。山梨 JRATでは地震防災訓練に毎年参加し、行政や一般の方々へ災害リハビリテーションの啓発活動を図り、災害時に向けて平時より顔の見える関係づくりに努めています。

地域支援事業等推進委員会

- 「地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業」の導入研修を開催しました。10月19日(水)と11月4日(金)には地域包括ケア推進コースとして、16名の受講者とともに、地域包括ケアシステムと背景や地域ケア会議に参画していく為の知識と助言方法について、グループディスカッション等も行いながら学びを深めました。11月15日(火)と11月24日(木)には介護予防推進コースとして、18名の受講者と、介護予防事業について学びを深めるとともに、介護予防教室を開催するための計画立案を、グループディスカッションを通じて実際に体験しました。机上だけではなく、実際に地域に出向いて活動をする事で新たな学びや経験ができますので、積極的に出向いていってみたいかがでしょうか。今後も、当委員会は地域で活動できる言語聴覚士の育成に努めて参りたいと思えます。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

この1月16日で新型コロナウイルス感染が国内で確認されてから丸3年経過しました。この間、県士会事業も開催方法が見直され多くの事業がオンライン開催となり、対面研修ができない物足りなさを実感していた中、昨年末には3年ぶりのST学術大会が開催されました。オンラインでしたが、3年間の様々な経験の構築が当日のスムーズな運営に感じられ、学術的にも久しぶりに充実した時間でした。

卯年は芽を出した植物が成長していき、茎や葉が大きくなる時期で目に見えて大きく成長する時とされています。私も今年ST歴4年目となり、もっと成長できるように自分に向き合っていきたいと思えます。

本年も会報編集部をよろしくお願いいたします。

(高木 建汰)

在宅 HEALTH CARE FOOD 通信販売

病院で使われている医療・介護用食品をご家庭にお届けしています。

高栄養・やわらかい 飲み込みやすいサポート
送料無料セット

↑カタログのご請求はこちらからどうぞ♪

はつらつ食品カタログにはやわらかさの程度や形態別に分類されたおかずやデザート、とろみ調整食品や濃厚流動食品が掲載されています。また、栄養指導で役立つコラムも多数ご紹介しています！

株式会社ヘルシーネットワーク
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3
TEL 0120-236-977
FAX 0120-478-433

受付時間 月～土 9:00～17:00 (日・祝日は休業日となります)
ヘルシーネットワーク 検索
https://www.healthynetwork.co.jp

おかげさまで40周年

●認定補聴器技能者在籍
●補聴器の無料体験
●支援法補聴器取り扱い

写真：シグニア補聴器 スタイレット 充電式

認定補聴器専門店
なかだて補聴器センター

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 T-ウエスト

G ジェントル スティム

リハビリテーションのための
新たな電気刺激装置

痛くない療法
感覚刺激
使いやすい

foodCare JAPAN
TEL: 042-700-0039 www.food-care.co.jp

Platz
STAND UP! 30th Anniversary

誤嚥リスクの低減
新しい背上げ
ハイバックサポート機能

ASPINO
医療・介護ベッドメーカー
株式会社プラッツ

■関東支店 / 関東ショールーム
〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 TRCセンタービル7階
TEL: 03-5763-5425 FAX: 03-5763-5426
■福岡本社 ■北海道 ■宮城 ■東京 ■愛知 ■大阪 ■広島

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。

株式会社アトスメディカルジャパン
〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

Pepti-Sal
Oral Health for Everyone

唾液のチカラで健康と笑顔を

デリケートなお口をやさしくケアし
お口の環境を健康に保ちます

Pepti-Sal (ペプチサル) とは「Peptide (ペプチド)」+「Saliva (唾液)」の造語。唾液のチカラに着目して開発された、低刺激性のオーラルケア製品です。要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

TeK ティーアンドケー株式会社
www.comfort-tek.co.jp

morinaga

消費者庁許可 乳下調整専用
とろみ調整用食品

売上 No.1
2018年度とろみ調整区分 (株)シード・プランニング調べ

つるりんこ
Quickly

飲み込みにくいとを感じる方が、
安心しておいしく水分や栄養を摂取するために

0120-52-0050
受付時間：平日 9:30～17:00 (土日祝日・年末年始・5/1除く)

森永乳業グループ病態栄養部門
株式会社クリニコ

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会
<発行人> 内山量史
<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 社会局会報編集・HP管理部

石和 共立病院 原田史佳
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 志摩美月
甲府城南病院 秋山仁哉・桂川謙祐
河村有美
湯村温泉病院 高木建汰
山梨大学医学部附属病院 赤池洋

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366
<発行日> 2023年2月1日 第54刊